

福岡市設計測量業協会「令和8年新年賀詞交歓会」開く 新たなスタートを迎え、測量業界の展望と発展を誓う



協会員の絆が深まった「新年賀詞交歓会」

（一社）福岡市設計測量業協会（宗道昭会長）の「令和8年新年賀詞交歓会」は22日、福岡市のグランド・ハイアット・福岡で開かれた。協会会員や福岡市の幹部職員、国土地理院九州地方測量部、日本測量協会九州支部、顧問の福岡市議会議員ら約80人が出席し、業界のさらなる発展と会員企業の繁栄を誓い合った。

冒頭、宗会長（㈱昭和建設コンサルタント）は、「昨年は日向灘沖地震をはじめ、全国各地で地震や豪雨災害が相次ぎ、災害時の行動シミュレーションの重要性を改めて感じました。特に福岡市では8月に線状降水帯が発生し、最大470ミリの降雨を記録。その影響で志賀島や東区、西区を中心に浸水や法面崩壊が起こるなど、協会としても7件の災害対応に取り組みました。現在、上



挨拶する宗会長

下水道施設などの公共インフラの老朽化が大きな社会問題となっており、インフラの維持・更新は待ったなしの状況です。また、会員減少や技術者の高齢化、若手技術者不足といった課題も抱えています。地域の守り手として、地元企業の技術力を発揮できるよう努めていきたい」と述べ、「設計等委託業務成績評定制度の実現により、成績が85点以上の場合には指名で考慮されるようになりました。また、道路下水道局では協会会員名簿をエクセル化し、指名業者選定に活用しています。名簿については“各社の得意分野やPR欄を充実してほしい”との要望があり、自社の強みをしっかり記入してほしいと呼びかけた。今後に向けては、デジタル化や働き方改革、女性活躍を推進し、会員増と担い手の確保、そして福岡の発展に貢献したいと、新年のあいさつで締めくくった。

この後、来賓の福岡市財政局の竹下和宏理事が登壇し、高島宗一郎市長の代読を行った。まず初めに「協会の福岡市政への多大なご支援を賜り厚くお礼を申し上げる」と感謝の意を述べ、「現在、福岡市では、天神ビッグバンをはじめとする大型再開発や、福岡空港新滑走路の供用開始、博多地区での約150棟におよぶビル建替え計画など、都市基盤の強化と魅力の向上に努めております。また、グローバル企業の誘致、花や緑、アートを活用したまちづくりの推進、西公園のリニューアルやアジア美術



来賓挨拶の竹下財政局理事

館、ウォーターフロント地区再整備など、人や企業に選ばれる都市づくりを進めております。一方で、人口増加に伴い上下水道や道路といった基礎インフラの老朽化対策、さらには地震や豪雨等の自然災害への備え強化も重要な課題となっております。今後も、基礎インフラの充実および防災力の向上を図りながら、誰もが安心して暮らせる、住みよい福岡を目指して全力で取り組んでまいります。引き続き、都市の成長と生活の質の向上を持続し、人と環境と都市活力が調和したアジアのリーダー都市を目指してまいりますので、今後とも一層のご協力をお願い申し上げます」とあいさつした。



挨拶の小野部長

続いて国土交通省国土地理院九州地方測量部の小野康部長が紹介を受け「国土地理院は、令和8年度で現行の空間情報活用推進基本計画が最終年となることから、「令和9年度からの新たな計画の検討が始まる一年になります。また、人材確保のため、測量資格制度の見直しを令和8年度予算に要求しています。測量士や測量士補の資格のあり方を見直し、有資格者の安定的な確保を目指します」と語った。さらに、「測量の重要性を広く知っていただくため、協会が毎年行っている歩測イベントなどの活動は非常に意義のあるものです。今後も記念行事などを通じて、引き続きご協力をお願いします」と伝えた。



挨拶の福岡市議会議員

最後に、福岡市議会議員の福田まもる市議（顧問）は「福岡市は過去に大雨などの災害で被害を受けましたが、関係者の迅速な尽力により生活インフラが早期に復旧しました。市は災害協定を締結し、多方面からの支援を受けており、皆様の協力が現在の福岡市の発展の礎となっております。昨年、協会が50周年の節目を迎えたことを

祝し、今後もさらなる発展に向けて福岡市と市議会として引き続き協力・支援していく考えです」と述べた。この後、小玉純士副会長（ダン技術設計㈱）による乾杯の発声で祝宴に入り、出席者は新年のあいさつを交わしながら、業界の更なる発展と飛躍に向けて決意を新たにしました。